

ほかふれフェスタ参加団体訪問記



病気の理解と子どもたちへの支援の輪を広げよう！ 難病やおこし活動の推進をすすめるNPO法人チームフォー



大型台風19号が関東地方を直撃するにあたって急遽中止になったほかふれフェスタ2019の参加団体の1つで、今年もラーメン店を出す予定だった特定非営利活動法人 チーム浅沼屋 for children and ALSの理事長として活動している浅沼みゆは、11月の日(水)午後2時からあじろ会館NPOで、社会福祉協議会の井上さんにも同席してもらい、直接お話を伺いようができました。
◆淵野辺でラーメン店を営むご主人ですが、病気を告げられた時のお気持ちをお話します。



笑顔いっぱい！ラーメンを作っている浅沼さん

「こんなことでは未来がない。1年で車いすと言われたけれどまだ動けるから何か人のためになることをしたいときえるようにになりました。幸い息子が店を継いでくれた、お父さんは好きなことをすればいい、と背中を押してくれました。彼がいるから私は活動できるんです」

◆今年4回は入退院を繰り返して、毎日点滴を飲んでいるお父さんご本人の活動ですが、グループのご活動も至った経緯は、

「ALSという病気のことを多くの人に知ってもらい、同じ病に苦しんでいる人を勇気づけたいという思い、子どもたち、特に養護施設に居る子どもたちに喜んでもらえるような活動がしたいという思いから、まず中学の同級生だった東洋大学の福祉関係の先生に相談したところ、賛同しすぐに田田や相模原在住の同級生たちに呼びかけてくれ、大勢の仲間が応援してくれ30人のグループとなりました。子どもたちを店に招待したり施設に出回ったり月1回のペースで活動し、平成30年5月にはNPO法人となり活動の幅も広がりました」

◆お手製のラーメンを食べた時の子どもたちの反応は、

「店に来て外食するのとは、施設で生活する子どもたちにとっては良い社会経験になったと思います。自分でメニューから選んでお腹一杯食べ満足げな様子を見て子どもたちを見るのは嬉しいですね。また、障がいのある子と親の会の皆さんを招待したこともあります。周囲の目を気にせず安心して連れて行けるお店があったと、親御さんから言われた時は嬉しかったです」

「他に、ラーメンの湯切りや、餃子作りなどの体験学習もやっています。最近では他の飲食店の店主さんともぜひやってみたくてお話をあびせていって、ラー



招待した子どもと優しく握手する浅沼さん

メン屋同士でコラボしたいとおもいます」

◆地域に根差した活動の輪が広がってきたのです。今後の希望は、

「動ける限りのこの活動を続けたいと思っています。子どもに関わることはやっぱり全部楽しんでいますから」

現在相模原市に3つある児童養護施設の子どもの多くが、18歳になると施設から退所して地域で暮らして行くのだという。浅沼みゆは、そうした子どもたちにとっての『少しでも相談のしつづけるお父さん』になりたい、見守っている大人が近くにいるんだというのを伝え続けたいと言っておられた。

浅沼さんの柔和なお顔立ちと優しい眼差し、秘められた強い信念に深い感銘を受けた。

(注) ALS (筋萎縮性側索硬化症)

(植野・山崎)



\*問い合わせ先 NPO 法人チーム浅沼屋 for children and ALS  
理事長 浅沼一也  
〒252-0242 相模原市中央区横山2-8-5  
Tel 090 - 3229 - 8410

\*活動に賛同し、寄付なされたい方は上記記載の住所に直接お持ちいただくか、下記銀行口座に振り込みをお願いします。

振込先 三井住友銀行 町田支店 105,000円  
普通預金 8262371  
特定非営利活動法人  
チーム浅沼屋 for children and ALS

